

令和5年度ブロック研修会報告書【提出期限：研修終了後】

令和5年11月 日

全国保健師長会事務局 辻 様

E-mail info-phn@jpha.or.jp

ブロック名 北海道ブロック

令和5年度ブロック研修会の実施結果について、下記のとおり報告します。

研修テーマ	コロナ禍の保健師活動の振り返りとこれからの保健師活動を考える
研修の概要	<p>【目的】 コロナ禍に他市町村の保健師がどのような保健師活動を実践してきたのかを共有し、お互いに認め合うことで、保健師自身のセルフケアを大切にしながら、保健師の専門性や今後の保健師活動について考えるきっかけとする。</p> <p>【日時】 令和5年10月28日(土) 13:30~15:30</p> <p>【方法】 参集のみ</p> <p>【参加者数】 66名</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">□ 全国保健師長会 2023年度活動方針等説明 全国保健師長会 西本 美和 副会長□ シンポジウム 座長 札幌市保健所 山口 亮 所長 北海道：名寄保健所健康推進課健康支援係 千田 ちさと 係長 市町村：沼田町保健福祉課 西尾 佳代 参事 札幌市：札幌市北区保健福祉部健康・子ども課 石川 珠美 課長
意見交換の内容など	<p>○コロナ禍の活動を保健師活動指針に沿って振り返りながらの実践発表。 各シンポジストからは、それぞれの部署の立場で、「コロナ禍に入職した新人保健師の人材育成を大切にしながらの活動」、「ICNとの連携を平時の活動につなげていく活動」、「個別の課題から地域の課題に捉え施策化へつなげた活動」、「統括保健師が町コロナ対策の中心となり調整・推進し、庁内において保健師の役割が再認識された活動」、「感染の波に合わせて保健師の役割を変化させ、新たな組織体制づくりや民間活用などにつなげた活動」などについて発表があった。</p> <p>○参加者からは、「振り返ることにためらいがあったが、話を聞いて自身の頑張りを認めてあげられた」、「自身のコロナ業務も振り返ることができ、コロナ禍でも成長できたと実感できた」、「コロナを特別なことで終わらせず、日常につなげるところが参考になった」、「どんな状況でも保健師の専門性を発揮していくことが重要と改めて感じた」などの感想が聞かれた。</p> <p>○参集のみの開催で参加者はWEB開催に比べ少なかったが、全道各地から参加があり、直接会場で話を聞くことでシンポジストの熱い思いも伝わり、GWはプログラム上難しかったが、参加者間の交流もあり、対面開催の良さも感じられた。</p>
報告者	所属・氏名：札幌市白石区保健福祉部 齊藤 佳代子 電話番号・アドレス：011-862-1885 kayoko.saito@city.sapporo.jp